

平成29年度岩手県教育研究発表会

「いわての防災スクール」事業 実践報告

—避難所生活体験を中核とした小中・地域一体となった防災教育の推進—

滝沢市立柳沢小中学校



全体計画

小3・4年
防災体験学習

小5・6年
火山学習

中1～3年
被災地訪問

小3～中3年 岩手山の地層と噴火の歴史学習

Goal!!

小5～中3年 避難所生活体験学習

小1～中3年 復興副読本を活用した授業の公開

教員
先進校視察

小5・6年 火山学習 (イーハトーブ火山局・焼走り)



平成29年6月19日 「フィッシュ」 第1号

見つけたペリドット!

六月九日、焼走り熔岩流を見学しました。焼走り熔岩流は、岩手山(五号目)の230mからふんしつされた。されました。熔岩のドットに

六月九日、焼走り熔岩流を見学しました。焼走り熔岩流は、岩手山(五号目)の230mからふんしつされた。されました。熔岩のドットに

柳沢小 5年

その石は、めい、あ、いう、石、が、こ、いう、石、が、

柳沢小 5年

その石は、めい、あ、いう、石、が、こ、いう、石、が、

感 想

私が、砂防えん、てい、で、学、ん、だ、こ、と、は、岩、手、山、は、き、よ、う、ふ、と、め、ぐ、み、が、あ、る、と、い、う、こ、と、を、知、り、ま、し、た。き、よ、う、ふ、は、ふ、ん、火、マ、ゲ、マ、め、ぐ、み、は、水、自、然、と、い、う、こ、と、が、分、か、て、ま、か、た、と、思、い、ま、し、た。ち、と、思、い、ま、し、た。ち、え、と、あ、け、た、い、で、す。

中1～3年 被災地訪問 (陸前高田市方面)



「大津波は建物等の目に見えるものだけではなく、**心という内面までも奪ってしまうほど大変な出来事**だったのだと改めて感じました。」

小1～中3年

復興副読本を活用した授業の公開



「そのとき、どうする？」 (小1年)



「ひなんリュックに、なにを入れる？」
(小2年)



「できますゼッケン」 (中1年)

全体計画

小3・4年
防災体験学習

小5・6年
火山学習

中1～3年
被災地見学

小3～中3年 岩手山の地層と噴火の歴史学習

小5～中3年 避難所生活体験学習

小1～中3年 復興副読本を活用した授業の公開

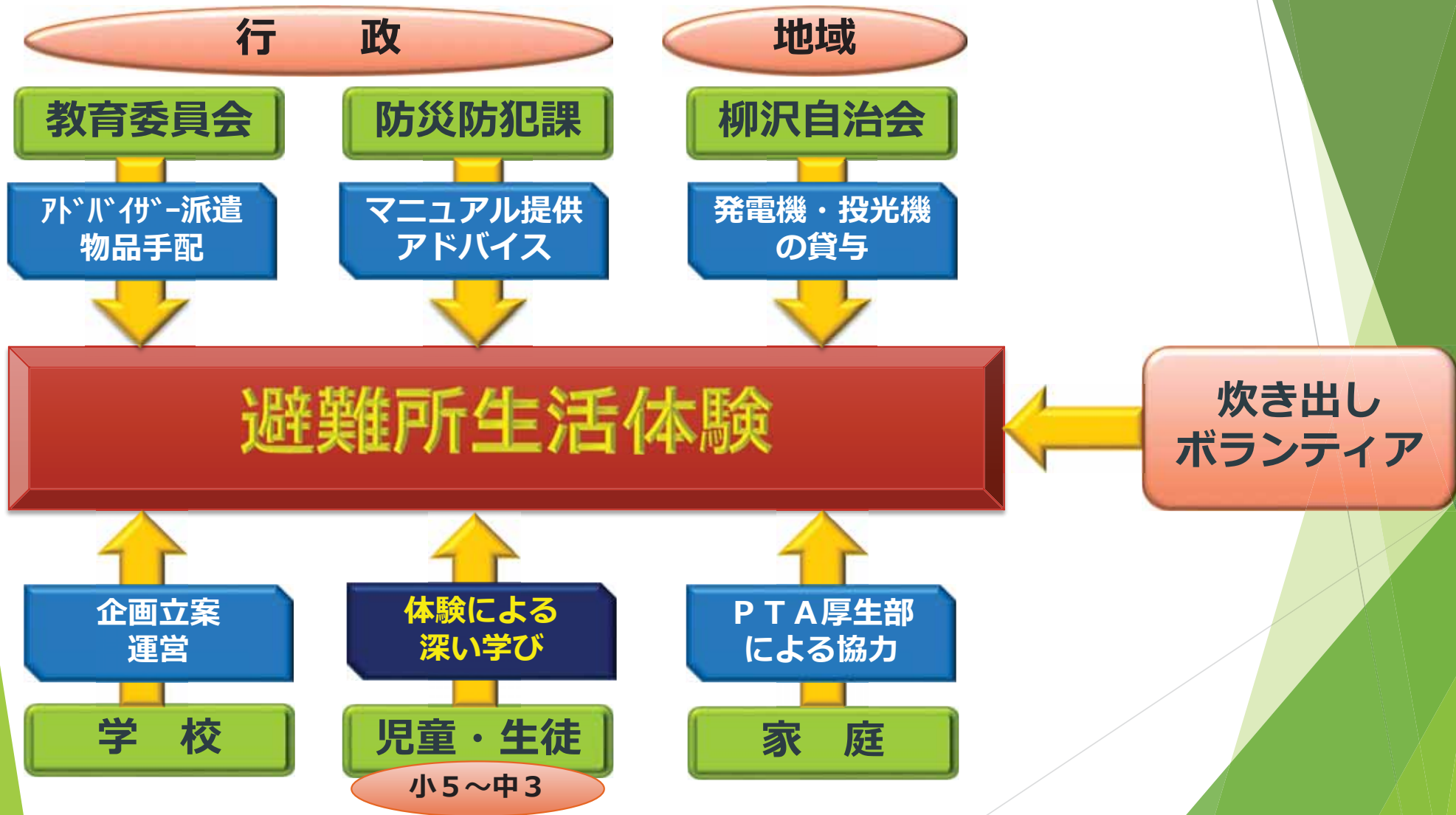
教員
先進校視察

避難所生活体験学習のねらい

- ▶ 家族や地域のために働くという意識の醸成
- ▶ 災害発生時、人に迷惑をかけず、
自らの役割を果たすという意識の向上
- ▶ 防災と地域に対する関心と自覚の高まり



家庭・地域・行政との連携



避難所生活体験の流れ

避難所運営ゲーム (HUG)

避難所設営体験

講演会

宿泊体験

避難所運営ゲーム（HUG）

- ▶ 避難所の出来事や避難者対応をゲーム感覚で疑似体験する防災カードゲーム



避難所運営ゲーム（HUG）

- ▶ 読み上げ係...避難者カードを読み上げプレイヤーに渡す
- ▶ プレイヤー...相談し、避難者カードを配置していく



避難所運営ゲーム（避難者カード）

校庭のここにテントを立ててもらおうと、どうかな？



避難所運営ゲーム（イベントカード）

掲示板に掲示して
みんなに知らせよう！



避難所運営ゲーム（児童生徒の様子）

- ▶ 中学生 = 進んで動き、積極的に取り組む
- ▶ 小学生 = 中学生を見て、できることをやろうとする



避難所運営ゲームの感想

▶小学生

「いろいろな事情をもった人がいたり、物を運びこむ場所を考えたりして、とても大変だった。**避難所のスタッフは大変だ**と思った」

▶中学生

「どんどん人があふれてきて、**対処するのが難しかった**。カードでも難しいのだから、**実際にそういうことが起きたら、どれだけ大変なんだ**と思いました。」

避難所運営ゲームの感想

▶ 保護者

「どんなゲームか分からなかったもので、やりながら『なるほど』と思いながら楽しくやりました。実際の現場では楽しくできるわけではなく、**どこをどうするのかとパニックになりそうでした。**状況を考えながら配置していくこのゲームは頭を使い想像しながらやりましたが難しかったです。**子ども達が考えながらやっていたので、すごい**と思いました。」

避難所生活体験の流れ

避難所運営ゲーム (HUG)

避難所設営体験

講演会

宿泊体験

学校防災対策組織図

滝沢市教育委員会

滝沢市防災防犯課

学校防災対策本部
【通報連絡班】

連絡・福祉班

物資・衛生班

救護・給食班

柳沢小中学校

連絡・福祉班

▶ 受付場所の設置と受付



物資・衛生班

- ▶ 柔道の畳や卓球のフェンス等を活用し
居住スペース作り



物資・衛生班

▶ 暑さ、虫除け対策の網の設営



救護・給食班

▶ 食器再利用のためのラップ巻



救護・給食班

- ▶ 水だけでできるアルファ米による五目ごはん作り



夕食の様子

▶ 夕食 = 五目ごはん + ちゃんこ



夕食の様子

▶ 地区ごとの居住スペースで夕食



避難所生活体験の流れ

避難所運営ゲーム (HUG)

避難所設営体験

講演会

宿泊体験

講演会 岡田 孝さん (JA宮城)

- 東日本大震災当時の石巻の様子
- JAとしての支援の取組
- 車で行った熊本への支援
- 人間同士が助け合う絆の強さ

講演会 菅原晴広さん (ちゃんこ大五郎)

- 東日本大震災の際、炊き出しに行った時のエピソード
- 東日本大震災の被害の様子や復興支援の苦労
- 「ありがとう」という言葉の大切さ

講演会

= 児童生徒の学び =



「自分は何をすればよ
いかを考えていけば、自
然とやるべきことがわか
ってくると思った。」
「テレビに映らなくなると、あまり考えなくなっていたので、何が被災地に必要かをこれから考えていきたい。」

避難所生活体験の流れ

避難所運営ゲーム (HUG)

避難所設営体験

講演会

宿泊体験

宿泊体験の様子



= 児童生徒のアンケート結果 =

学 習 内 容	アンケート結果 (5点満点)
避難所運営ゲーム	4.7
避難所設営体験	4.7
講 演 会	4.8



= 児童の振り返り =

平成29年8月22日 「鷹」 第6号

助け合いの大変さ

七月二十一日の二日、避難所生活体験をしました。そこでゲームをやりました。ムとムとつぎとつぎと。

柳沢小 6年

避難者のために、道を、適切に配置したり、犬を置きたり、犬を置くことにも考えた。いろいろなゲームです。バニククになりました。大変なのは避難者だけではない。だんな改めて、思いま

人と人の助け合い

今回の避難所生活体験を通じて、助け合、て生きる大切さを改めて感じました。みんな協力したから避難所生活体験が成功したと思います。たった二日間だったけど、避難生活の大変さを改めて感じた、貴重な二日間でした。

平成29年8月22日 「真珠」 第7号

助け合い復興

七月二十一日の避難所生活体験で、最後にちゃんこ大五郎さんの講演会を聞ききました。話の中で一番心に残ったことは、ひさい地に

柳沢小 6年

たぎだしに行ったとき、逆にひさい者から笑顔をもらいはげまされたという事です。おたがいの助け合いで、復興し続けていると思えました。

菅原さんの経験は素晴らしいです。晴らしいと思います。

大変な生活

ご飯はアルファ米でした。ラップの上のせて食べました。一日目は初めて食べて、美味いと思っただけど、二日目からはだんだんあきてきました。避難所では、あまり自由に過ごせないことが多いので、とても大変でした。



= 生徒の振り返り =

「実際に泊まってみると、予想以上に暑いし、床も固く、これを数日続けるだけで腰等が痛くなってしまいそうだった。これを数ヶ月続けるのは、とても大変だと実感した」

「声や音がとても響くので、一人が歩いたり、物を落としたりすると、うるさくなった。他の人もいるので気をつかわなければならないので大変だと思った」

「窓を開けていたので風が来るかなと思ったら、あまりふいていないので暑くて大変だった。しかし、朝は寒くて温度差が大きく、体調管理にも気をつけなければならないと思った」

な
 流れるきけん
 火砕流と
 土せき流

火せりうは、
 ヲグマが粉々にな。およぼします。土
 た火山灰や軽石か、せきりうは、山
 高温の火山が入と、から土や石が一気
 一体とな。てなだに流水落ちてくる
 小川は、健康や、いいきおいで流れ
 柳4は、大きな被害を、てきます。とても
 水さいる火、ものです。どちら
 山からものすこ
 速いので、見えて
 しまうとあぶない
 です。ですから小
 火砕流をしがりと聞くよう
 にしてください。



= 成 果 =

○避難所運営計画の追加

→五者の**役割と連携の明確化**

・市防災防犯課の協力→実践的な学習に

○防災アドバイザーやボランティアの招聘

→児童生徒＋教職員の**学びの深まり**

・学び＝岩手山の噴火の歴史、メカニズム
防災意識の高まり等

○避難所生活体験

→児童生徒の**自助・共助の考えの深まり**



= 課 題 =

- 実践継続のための計画の吟味
- 教科等と防災教育の関連に関する研修
- 家庭や地域との継続的な連携のための工夫





ご静聴ありがとうございました